

## 全国的人脈づくりと女性活躍



消防大学校長  
牧 慎太郎

近年、50年に1度といわれるような大規模な災害が毎年のように全国各地で起きています。もともと地球の陸地面積の0.25%しかない国土に世界の自然災害による被害総額の15%が集中する災害の多い日本ですが、頻発する風水害、地震、火山噴火などに加え、地球温暖化による影響もあり台風等による豪雨災害が激甚化しています。また、電気に依存する便利な生活の反面、災害に起因する停電が長期化すると人々の生活に深刻な影響を与えます。他方、建物火災はこの10年間で約3割減少していますが、京都市伏見区の放火事件のようにバケツ一杯のガソリンに火をつけて36名もの尊い命を奪う単独犯によるテロも住民の身近に起こっています。

まさに、暮らしの安心安全が脅威に晒される現代社会において、地域防災の中核を担う消防職員・団員に対する地域住民からの期待は高まっています。また、災害の大規模化によって都道府県の枠を越えたより広域的な相互援助体制の充実が求められています。

消防大学校では、幹部科、警防科、救助科、救急科、予防科、危険物科、火災調査科などの各学科で1～2ヶ月の間、全国各地の消防本部等から選ばれた学生が寮生活で寝食をともにしながら消防幹部として必要な教育訓練を受けます。

入校式では私から「皆さんはこれから約2ヶ月間にわたり同期生として志をともにし、共同生活を送ることになりますが、全国の消防の仲間とお互いに切磋琢磨し交流を深めることにより、研修期間が終わっても一生の宝として同期のつながりが続くような実りある大学校生活となることを期待しています」と、また卒業式では「在校中、苦楽をともに分かち合った仲間とのつながりを大切にされ、これからの消防人生において貴重な財産として大いに生かして頂きたいと思います」と学生の皆さんにお話しています。

消防大学校では卒業にあたって学生に作文を書いてもらいますが、その中でも北は北海道・東北から南は九州・沖縄まで全国各地に熱い絆で結ばれたかけがえのない仲間が

---

できたことへの感謝の気持ちを記したものが数多く見受けられます。また、卒業後もLINEなどSNSを活用して同期生で災害情報等の共有を図るような動きもあります。実際、全国各地で大規模な災害が多発する中、緊急消防援助隊が被災地に入ったとき、消防大学の教官や卒業生の人的ネットワークが受援地域と各隊連携した救援活動の円滑な実施に大きく役立っているという声もお聞きします。昨年の西日本豪雨では岡山、広島、愛媛、高知の4県に対し、21の都道府県から延べ3,442隊、13,372名の陸上部隊と271機のヘリが救援活動を行い、このたびの台風19号では宮城、福島、長野の3県に対し、14の都道府県から延べ約755隊、約2,680人の陸上部隊と39機のヘリが救援活動を行いました。このように単独の消防本部では対応が難しい大規模な災害が多発しており、都道府県の枠を越えた全国的な消防人材のネットワーク形成の重要性は益々高まっています。消防大学における学生の受け入れにあたっては単純に消防職員数で按分するのではなく、例えば各都道府県から各学科一人は優先的に受け入れるなど、各消防本部の将来を背負って立つ幹部候補が消防大学で全国的な人脈を築くことができるような選抜方法を工夫し、卒業生が消防幹部として全国的なネットワークを形成できるよう後押ししていきたいと思っております。

一方、消防における女性の活躍も大きな課題です。ITやロボット技術の高度化、機材の軽量化等により必ずしも強い筋力を必要としない職域が広がり、防災減災に向けた地域住民の意識改革や地域コミュニティの再生といった面からも女性消防職員・団員が活躍する場面は大きく広がっています。消防庁では約16万人の消防職員のうち現在2.7%となっている女性消防職員の割合を令和8年度までに5%に増やすことを目標としていますが、消防大学では平成27年度には浴室、談話室など女性専用施設を北寮に増築し、平成30年度には女性活躍推進コースも含めて卒業生の4.9%まで女性が占める割合が増えました。また今年10月には消防大学60年の歴史で初めて女性の幹部科総代(学生代表)が誕生しました。来年度は女性活躍推進コースの定員を増員するとともに、それ以外の各教育課程においても5%の女性優先枠を活用して女性消防職員の幹部育成を積極的に図っていくこととしています。

消防大学では来年度の教育訓練計画において、このように卒業生による消防幹部としての全国的なネットワークの形成や女性の活躍推進に力を入れるほか、講義内容にSNSやドローンなど高度なITへの対応を盛り込むなど、全国の消防職員・団員の期待に応えていきたいと考えております。